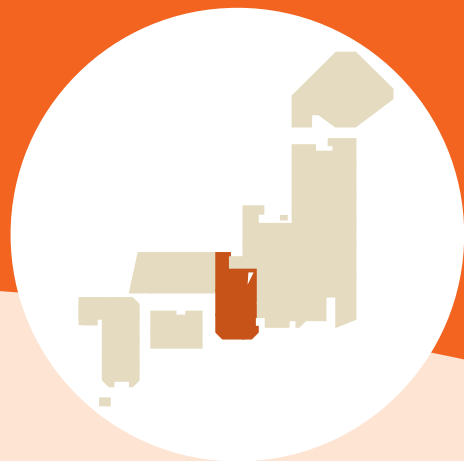


# 近畿



p.46 滋賀県

大澤藤樹さん  
ローイング



p.47 滋賀県

山森祐輔さん  
テニス



p.48 京都府

吉中康子さん  
ウォークラリー



p.49 大阪府

二宮一さん  
弓道



p.50 兵庫県

内田敬三さん  
マラソン



p.51 兵庫県

仲川邦俊さん  
マラソン



p.52 奈良県

森本千香子さん  
水泳



p.53 京都市

河合正樹さん  
ゲートボール



p.54 京都市

村田良宏さん  
テニス



p.55 大阪市

石渡真吉さん  
水泳



p.56 堺市

國分加代子さん  
ゲートボール



p.57 堺市

吉村利夫さん  
グラウンド・ゴルフ



p.58 神戸市

和田明子さん  
ペタンク





## ローイング

レイクびわろ Rowズ (監督兼選手)

おおさわ ふじき

大澤 藤樹さん

65歳

● 参加歴：1回目

## ボートへの熱い思いを胸に、感激の初出場

大会の1年前にねんりんピックのことを知り、種目にローイング（ボート競技）があることを知ったのが始まりでした。

我々はBGLというクラブに所属し、関西みらいローイングセンター（滋賀県立琵琶湖漕艇場）で月に3、4回ほど練習しています。会長（同志社大学ボート部OB）以外は皆素人で、散歩中に声をかけられたり、仲間に誘われたりして集まったメンバーで、現在は30名弱ほどのクラブです。出場に向けて、まず、年齢が近い仲間に「ぜひ出よう！」と声をかけて参加することになりました。しかし、それにはまず県の大会に出て代表の座を勝ち取らなければなりません。まあ負けてもチャレンジすることが大事だと、5月の県民大会にエントリーしましたが、我々が出る男子ナックルフォア（KF）はなんと1艇のみ！ ちょっと拍子抜けの感もありましたが、見えない敵を想定して頑張って漕いだ結果、滋賀県代表の座を得られたことは素直にうれしかったです。

大会前日にレンタカーでいざ鳥取県米子市へ。メンバー6人、還暦を過ぎていても気持ちは子どものようにワクワクしていたような……（笑）。会場の下見をして明日からの試合に備えました。

大会初日は朝から荒天で雨風が強く、予定されていた配艇練習は中止に。開始式は予定通り行われ、歓迎セレモニーでの小学生の「米子がいな太鼓」の演奏は本当に素晴らしいものでした。しかし、天候は結局回復せず、この日はすべてキャンセルとなりました。

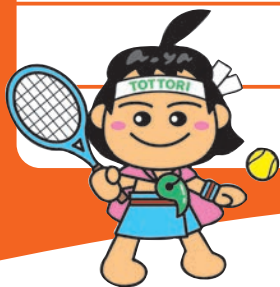
夜はホテルでレセプションを開催していただ

き、他府県のメンバーとも交流し、有意義な時間を過ごせました。なかでも鳥取ローイング協会会長のあいさつで、ボートに対する熱い思い、それは高齢者から子どもの世代までつなげていきたいということ、そのためには17年間空白だったローイング大会をぜひ鳥取で開催したいと準備から奔走されたことを拝聴して、私たちも胸が熱くなる思いでした。

大会2日目は雨は上がったものの風が強く、運営本部で協議された結果、急きょ山陰（やまかげ）に臨時のコースが設営され、一本のみのタイムレースを実施していただきました。結果は18艇中16位という成績になりましたが、何とか一本でも漕げるよう関係者の皆様に懸命に努力していただいたことに感謝しかありません。今回、鳥取そして米子の方々の温かい人柄、心からのおもてなしに触れ、「ああ～、参加できてよかった！」とつくづく思いました。これまで携わっていただいた関係者の方々にも厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました！



童心にかえり心を浮き立たせて会場へ。（左端）



## テニス レイク近江 2024 (監督兼選手)

やま もり ゆう すけ

山森 祐輔 さん 70歳 ●参加歴：2回目

## “魔法のスポーツ” テニスをして、健康になろう

私たち滋賀県選手団とスタッフが会場であるヤマタスポーツパークに到着すると、雨天にも関わらず、すでに会場は歓迎ムード一色でした。鳥取県民の方々の心温まる歓迎に感動し、大会に参加できてよかったなあとしみじみと感じました。

鳥取県の名物らっきょうや各選手のネーム入りの木のコースターなど、たくさんのおみやげもいただきました。らっきょうは、副賞の「ピンク華麗」と一緒に食べました。カレーがピンク色でびっくり仰天でしたが、とてもおいしくいただきました。

私は60歳になると同時に、悲願だったねんりんピック（やまぐち大会）に参加することができました。私の机の前には、やまぐち大会の記念メダルや思い出の写真集を飾っています。それらの記念品を眺めていると、参加者とのプレイの思い出が走馬灯のようによみがえってきます。今年70歳になった私は、夢をもう一度実現するため、とっとり大会に挑戦することにしました。運よく滋賀県予選を通過し、今回の大会に参加することができました。

さて、交流試合ですが、初日は、4チーム（大分県、山形県、名古屋市、滋賀県）総当たりの予選リーグ戦を行いました。滋賀県チームはかろうじて1位通過となり、選手全員が大喜びで一夜を過ごしました。2日目は、1位グループの決勝トーナメントでした。1回戦は浜松市、2回戦は愛媛県、準決

勝戦は茨城県と順調に勝ち進みました。決勝戦は強敵三重県と対戦し、なんと、滋賀県チームが辛勝して、奇跡の連覇優勝を達成することができました。長寿県である滋賀県が、全国の皆様に、滋賀県民のシニア層はまだまだ元気であることを証明できた、と自負しています。

スポーツを楽しむと、その人を健康にし、さらに、寿命を延ばすそうです。また、スポーツの中でも、テニスが最も寿命を延ばしてくれるという説もあります。さらに、脳やメンタルの健康にも効果的だそうです。テニスが魔法のスポーツであることを確信しながら、これからも愛用のラケットを振り回し、テニスコートを駆けまわるつもりです。

今後も、テニスが健康に良いスポーツであることを一人でも多くの人たちに伝えていきたいと思っています。

最後になりましたが、素晴らしい思い出を与我てくださった関係者の皆様に、心から感謝いたします。ありがとうございました。



表彰式終了後にチーム全員で笑顔の記念撮影。(右から3番目)



## ウォークラリー かめおか元気アップ(選手)

よし なか やす こ  
吉中 康子さん 72歳 ●参加歴：1回目

## 奥深いウォークラリー、人生の新たな楽しみを発見

2024年1月の理事会で第36回ねんりんピックのウォークラリーに選手を派遣するという議題が上がり、60歳以上という条件を聞いて加盟団体の中から声をかけ合って応募したのが「かめおか元気アップ」の私たち5人でした。2月にLINEグループで情報共有し、京都府予選会に参加。これは面白いとなり、9月29日に大宮交通公園で開催されたウォークラリーで優勝し、モチベーションも上がったところで全員で京都府のユニフォームをそろえ、準備万端整いました。

10月18日の結団式(都ホテル京都八条 陽明殿)には全員で参加し、21種目128名がバスで鳥取に向かいました。初日のはわい温泉望湖楼での京都府選手団懇親会では、さまざまな種目代表チームと交流し、私たちは亀岡市のゆるキャラ体操「かめまる体操∞アッハッハ」を披露して、おいしいお料理を堪能しました。

翌日の19日は大雨のため総合開会式は会場変更となりましたが、鳥取県立倉吉未来中心に移動してウォークラリーの開始式アトラクションに参加しました。倉吉のレガシーが体験できるとても素敵なものでした。

さて、ウォークラリー当日は地元の中学生在が各チームについてくださり、考え抜かれたコース設定を楽しみながら歩くことができました。道で出会った倉吉市民の皆様から応援の言葉をいただき、街の皆さんの温かさに触れることもできました。成績発表までのアトラクションも最高でしたが、広田一恭市長さんのユーモアあふれるごあ

いさつに、皆が盛り上がりました。

私たちは、週1回7時からの朝体操に集い、平素は国際ソロブチミスト、集い場の運営、親子のワークショップなど奉仕活動を担うメンバーです。今回初めてねんりんピックに参加してウォークラリーと出会い、奉仕活動以外の喜びを得ることができました。成績は21チーム中18位(歩くのが速すぎて、時間得点で減点)。ウォークラリーにはコースの読みと作戦が必要なのだと、競技の奥深さを知りました。そして、この体験で、人生の新たな楽しみに出会いました。またチャンスがあればぜひ参加したい、これが5人のメンバーの思いです。

最後に、大会を支えてくれたボランティアの皆様、京都府のサポーター、参加選手の皆様に感謝し、御礼を申し上げます。



かめおか元気アップの5人のメンバー。左から、森田育子さん、本人、丸山礼子さん、森照子さん、川勝真里さん。



## 弓道 大阪府 (監督兼選手)

にのみや はじめ

二宮 一さん 69歳 ●参加歴：2回目

## 予選敗退も次回大会でリベンジを誓う

ねんりんピックとっとり大会の大阪府予選会は4月7日に開催され、男性4名、女性2名の6名が選出されました。後日、大阪府の旗手の依頼があり、10月3日の大阪府選手団結団式では、選手を代表して選手宣誓をさせていただきました。

10月18日、新大阪駅から鳥取に出発し、砂丘を望む宿泊先に到着しました。残念だったのは、19日当日は朝から雨模様で、総合開会式会場に着いた後も雨が止まず、グラウンドでのセレモニー全体が中止になり、旗手として入場行進ができなかったことでした。

総合開会式は屋内で簡略化して開催されましたが、一生に一度あるかどうかの役目を果たせず心残りでした。事前準備をされた現地スタッフの方々のご苦労を考えると、入場行進などのプログラムも実施できていたらと思いました。ただ、会場ではいろいろな出店があり、お土産も購入することができて、温かいおもてなしを受けることができました。

夕方からの弓道種目の開始式では地元の方々の温かい歓迎を受け、とても楽しい時間を過ごせました。

18日、19日、20日と3泊とも宿泊先には温泉があり、体も心もゆったり、ほっこりでき、温泉三味を楽しむことができました。

20日の予選会では地元幼稚園児さんたちからの「頑張れー」との声援を受け、力をもらったのです

が、結果は予選敗退となりました。

弓道会場の整備、管理も大変だったと思いますが、スムーズな進行で気持ちよく弓を引けました。また、全国から集まった選手には旧知の方々もおられ、久々の出会いでもあり、親交を深めることができました。

今後ますます高齢化が進み、ねんりんピックの意義を再確認しています。60歳を過ぎても若々しく、70歳、80歳と年を重ねても現役として弓道ができるように、また2年後のねんりんピックに出場できるように、頑張ってお練を積んでいきたいと思っています。

そして、毎年ねんりんピックに携わっておられる関係者の皆様に、心から感謝いたします。ありがとうございました。



地元のお子さんの声援を受けながら全員で健闘。(前列右端)



## マラソン 10km 兵庫県（選手代表）

うちだ けいぞう

内田 敬三 さん 78歳 ●参加歴：3回目

## 順位よりも楽しむことを優先し、応援者とも交流

明石駅からバスで兵庫県のマラソン選手2名と合流し、前泊の宿に大満足。当日の同室者はペタンの選手2名で、昨年の優勝者と出会い、ペタンの競技ルールや、その発祥地がフランスであったことを知りました。

今回は3回目の参加となりますが、毎回ねんりんピック参加者ランナーの走力に感動するとともに、刺激になっています。

総合開会式の当日は雨天で、急遽屋外から室内開催に変更となり、各県数名のみが参加するさびしい開催となったのは残念でした。私たちはグラウンドの観覧席で雨宿りしながら開会式の映像を確認し、昼食はバスの中で食べました。

温泉宿の夕食料理の仕込みと作法は初体験でした。地産地消の逸品料理のおもてなしに感動した友だちは、次回は夫妻で泊まりたいと話していました。また、夕食時は関東地区からのマラソン参加者と同席し、マラソン談義で大いに盛り上がりました。

翌朝は、バスの迎えの時刻（9：00）からスタート時間（10：10）まで時間に余裕がないことが分かりました。この時間内に宿から現地まで移動し、受付を済ませゼッケン装備までするとすると、アップなど準備時間がとれません。仲間うちでは悲鳴が上がり、非常に心配していました。私も危機感を感じ、大会輸送関係者に電話をして、迎えの時間を早められないか懇願しましたが、大会側からの返事は無理とのことでした。しかし当日の朝、20分ほど早く対応していただき、参加者皆が安堵しました。レースは好天に恵まれ、ランナー冥利の大会となり感動しました。

種目別の開始式では、兵庫県の生田糸子さん

が女性最高齢者参加者で表彰されました。

私は、2024年3月に大津のマラソン大会で、4時間24分で101回目の完走を果たしました。この記録は「フルマラソン1歳刻みランキング」で14位でした。今回の10kmの距離は、沿道の皆さんとの交流、海岸コースに吹く強風と波の音や波動に感動しました。過去のレースでは走ることに専念していましたが、今回は順位よりも楽しんで走ることを優先し、無理はせず、撮影も楽しみました。7kmあたりの沿道では、ねんりんピックの垂れ幕を持った応援者を見つけ、足を止めて、その方との心のこもった握手と、カメラ撮影が楽しかったです。

皆さんからの温かいおもてなしは、冬の厳しい環境から生まれた人情愛が感じられました。

全国からの参加者、開催に関係した皆さんに、感謝、感謝の大会でした。



ラストパートでゴールを目指す。(左)



第36回全国健康福祉祭とっとり大会

ねんりんピックはばたけ鳥取2024 マラソン



兵庫県選手団全員で記念撮影。(左から2人目)



## マラソン 10km 兵庫県(選手)

なかがわ くに とし

仲川 邦俊 さん 74 歳 ● 参加歴：1 回目

## 厳しい戦いの経験を糧に再度チャレンジしたい

北海道から沖縄まで全国の数多くの元気な高齢者の方々が集結したねんりんピックとっとり大会に出場させていただき、大変良い思い出となりました。

スポーツ交流及び文化交流を含め、30近くもある種目の多さに驚きました。今回は鳥取県下の市町村が舞台でしたが、毎回主催者となる県や市町村の各担当者のご苦労は計り知れないものがあると思います。

私は兵庫県代表の3名の1人としてマラソン交流大会に出場し、鳥取県には10月18日～20日まで3日間滞在しました。

マラソンの本番は20日でしたが、19日に総合開会式が予定されており、全種目の全選手が集結するためとても楽しみにしていました。しかし、生憎の雨模様で、風も強く最悪の天候に。一部の選手だけが室内で集まった小規模な開会式となり、大半は競技場の屋根がある場所で数時間も待機することとなり、とても残念な結果となりました。この悪天候の余波は、20日のマラソン本番の日にも尾を引くこととなりました。

現地では2泊しました。前泊ははわい温泉の千年亭、2泊目は七釜温泉の大田荘で、どちらもとても食事がおいしかったです。特に大田荘の女将さんをはじめ心温まるおもてなしの気持ちがこもった接客態度、一品一品が丁寧に作られた会席料理の数々には感心させられました。また機会があれば、

ぜひ家内と一緒に訪れたいと思いました。

さてマラソン大会ですが、場所は鳥取県東部の岩美町で、当日の天候は雨ではなかったものの曇り空で風が極端に強く、日本海に面する海岸線に沿ってアップダウンもある、なかなかタフなコースでした。

住民の方々の気持ちのこもった沿道の応援に励まされて精一杯頑張り、完走はしたものの、70歳以上の部で18位、1時間09分35秒という残念な結果となりました。今まで大半はハーフ、フルを走ってきたため、どこかに「たかが10km」という気持ちがあったのかもしれませんが。また、高齢者とは思えないぐらいのスピードでスタートした方々の勢いに面食らったところもあるかもしれません。これから加齢との闘いがますます苦しくなるなかで、今回のレースはこれまでの意識に一石を投じてくれました。この経験を忘れずに日々の練習に取り組み、機会があれば再度ねんりんピックにチャレンジしたいと思っています。



兵庫県チームの選手とともに。(中央)



山陰海岸に沿った起伏のある難しいコースを完走。



## 水泳 背泳ぎ 25 m、50 m 奈良水泳(選手)

もりもと ちかこ

森本 千香子 さん

80 歳

● 参加歴：1 回目

## 私たちでも周りを明るく照らせます！

10月19日～22日に開催されたねんりんピックとっとり大会に、奈良県水泳チームの一員として参加させていただきました。19日の鳥取市での総合開会式は荒天のため大幅に変更され、私たちはヤマタスポーツパークで昼過ぎまで待機。夕刻に米子市の東山水泳場での前日練習に参加後、再度移動して松江市のホテルに入り、長い一日を終えました。高齢者には少々厳しい行程でした。

翌20日は快晴の朝を迎え、気分も明るく「やっと泳げるときが来た～」とワクワクした気持ちでした。80～84歳区分の背泳ぎ50mに出場。当日、私はリラックスしていました。初めは息継ぎさえできなかった自分が、このように晴れがましい場で泳げることにうれしさと感謝の気持ちがみなぎり、スタートに集中できました。前半の25mはいつも通り身体が使えているか確認しながら泳ぎ、折り返しのクイックターンがうまく決まって後半はスピードに乗ることができました。

このレースに出場が決まってから少し悩みま

したが、自分の苦手な背泳ぎで挑戦することを決心し、この数カ月間は50mの練習に明け暮れました。背泳ぎを選んだことを後悔しないよう納得いくまで泳ぎ、少しずつできるようになっていく日々が、とても楽しくかけがえのない時間でした。

やってきた練習以上のことを本番でできる訳がありません。どれだけルンルンと楽しんで泳げるかが大切だと思って出場しました。

50mはイメージ通り泳げました。以前よりも3秒も早い「自己新」で金メダルに輝き、これほどうれしかったレースはありません。

翌21日の25mは、ゴールタッチでタイムロスをしてしまいガッカリしましたが、1位に入りホッとしました。奈良県水泳チームは、平泳ぎ25m(75～79歳)で小倉さんが金メダル、川崎さん、福田さん、宮浦さんもメダルにあと一步の好成績でした。海なし県奈良チームは、鳥取県で大いにはばたきました。

水泳は、水の中で「素」の自分に戻り、波の揺らぎを感じながら非日常を体感し、ほどよい疲れと睡眠を経て次の日に活力を生みだしてくれます。私は一生やり続けます。

何歳になろうともやり甲斐のあることに熱中し、周りを明るく照らす高齢者が増えれば、自然と健康につながります。長寿社会も暗いことばかりではない！と今回の交流を通じて強く感じることができました。鳥取県の皆さん、米子市の皆さん、笑顔のおもてなしをありがとう！



健闘した奈良県の水泳チームのメンバー。(後列右から2番目)



地元の中学校が製作してくれた奈良県ののぼり旗とともに。





## ゲートボール 京北（選手代表）

かわい まさき

河合 正樹 さん

68 歳

● 参加歴：2 回目

## 惜敗でも大きな感動、次への意欲

10月18日、神鍋高原のホテルで「京都市代表選手団決起集会」が行われ、ねんりんピックとっとり大会がスタートしました。京都市選手団の総勢約150名は貸切バスなどで会場へ。3時間余りの道中で、違う競技に出場される選手の方々との話も弾み、初めて聞く競技があったり、偶然にも同じ町内からの参加者がおられたり、大会に向けた緊張感などまったくありませんでした。

決起集会は、松井孝治京都市長や市議会議長さんからのビデオメッセージがあり、緊張感のなかで進んでいきました。選手団長のあいさつに続いて、いよいよ私の出番です。栄えある選手団を代表しての決意表明。「選手を代表して（中略）ここに決意いたします」。すべての参加選手が一丸となった瞬間でした。このあと懇親会があり、互いに大会での健闘を誓い合い、優勝を目指すチームや参加することに意義があるオリンピック精神のチームなど、和気あいあいのうちに終了しました。

いよいよ交流大会、私の出場はゲートボールです。初めに特別表彰式で、632名の中から93歳の男性や92歳の女性らに高齢者賞が授与されました。90歳を超えても活躍を続ける現役プレイヤーに敬意を表し、拍手を贈りました。

我が京北チームの成績は、予選1位突破の可能性とベスト16確定の条件を残した最終戦で、得失点差により勝っても2位止まりの状況のなかで思い切った作戦に出ましたが、惜しくも予選敗退に。白熱した試合で、観衆からも大きな拍手をいただき、悔いのない大会となりました。

ねんりんピックには地域での予選会があり、2年連続で出場できない制約もあるなかで、強敵が多いゲートボール競技で出場できた喜びをかみしめています。私自身は今大会が2度目で、2022年のかながわ大会においても、勝ったら1位の局面で1点差に泣きました。2回とも惜敗の悔しさもありますが、幸いにも予選敗退で鳥取観光ができたことで、チームの皆さんには大変喜んでいただき帰路につきました。

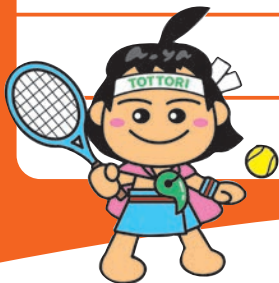
いろいろなチームの選手と交流ができて有意義な大会となり、スタッフの皆様やボランティアの皆様に対して感謝しかありません。2年後、再チャレンジしたいと思っています。



決起集会で3チームが集合。いざ、鳥取へ。（前列右から4番目）



選手代表として決意表明に立つ。



## テニス ええ男と京女 (監督兼選手)

むら た よし ひろ

村田 良宏 さん 64 歳 ● 参加歴：2 回目

### かけがえのない仲間と分かち合う、素晴らしき体験

とっとり大会は、私にとっては2回目のねんりんピック参加となりました。50代の頃からこの大会の主旨でもある「スポーツや文化を通じて全国の高齢者が交流を深め、心身の健康維持・増進を図る」ことに意義を感じ、60歳になったらぜひ参加したいと思っていました。

60歳の2020年大会はコロナ禍で中止、2022年のかながわ大会で初参加、充実した4日間を体験し、2024年の今大会にもぜひ行きたいとの願いが実現できました。

今年は開会式が大雨で会場変更。屋外イベントを楽しみにしていましたが、関係者のご尽力もあり、屋内でも素晴らしい式典を観させていただきました。

さて、私の出場種目テニスは2日間晴天にも恵まれ、京都市チームは初日予選を無敗で1位通過。とはいえ、テニス本来のゲーム数を大幅に短縮した4ゲーム先取という非常に難しい戦

い方で、1ポイントの重要性が増した設定となっています。でも、その厳しさや難しさのなかを勝ち抜くことで自信が生まれ、自身のテニスへの信頼感が芽ばえたことも確かです。

その日の夜は、同じホテルに宿泊していたテニス8チームが夕食会で大いに盛り上がり、笑いが絶えず、交流を深め、他者とのつながりを感じた一夜となりました。

さて2日目、1位トーナメントでは初戦突破、しかし次戦で神戸市に惜敗。私にとっては、前回と同じチームにまたも敗退してのベスト8です。テニス競技は前2試合の結果で勝敗が決まり、我々男子は試合せずに終了との結末でした。仕方ないことですが、やはり3試合目もやりたかった！でも、この団体戦では本来個人競技であるテニスでは味わえないチームワークや団結力の素晴らしさを体験することができました。

今大会で強く感じたこと、それは年齢に関わらず心身を鍛え、向上心を持って続けることで、さまざまな人との交流が生まれ、健康のありがたさを実感でき、生きがいを感じながら日々を過ごせるということです。

京都に帰り、20代から92歳までのテニス仲間

に今大会の素晴らしさを伝えたいです。

最後に、今大会の関係者すべての皆様に心より深く御礼申し上げます。



宿敵に敗れたものの栄光のベスト8に。(中列左)



決起集会でメンバーと記念ショット。(左)



## 水泳 平泳ぎ 25m、50 m 大阪市(選手代表)

いしわた しんきち

石渡 真吉 さん 62歳 ●参加歴：2回目

### 有言実行、「快泳」の喜び

4月から仕事の関係で大阪に転勤し、近くの市営プールで泳いでいるときに「ねんりんピック」が鳥取県で開催されるのを知りました。

水泳の代表選手になることができてうれしかったのですが、担当者から「大阪市選手団の選手代表として結団式の選手宣誓、開会式の旗手を務めてもらいたい」と言われ躊躇しました。大阪に来て間もない自分が代表を引き受けてよいものなのか悩みましたが、こんな機会もないだろうと思い引き受けることにしました。

大会の前日、115名の大阪市選手団はバスに分乗し大阪を出発しました。私の隣の席は、ペタンクの方でした。まったく知らない競技だったのですが、奥深さなどを聞かせてもらい、長時間のバス移動を楽しく過ごせました。その日の宿泊施設では、マラソンの方3名と相部屋になり、「走る」と「泳ぐ」の話題で盛り上がりました。

また、このようなこともありました。大阪市選手団が鳥取入りした日、宿泊施設の大広間で

夕食をいただいたのですが、そのとき選手代表としてスピーチをさせられました。突然だったので、思いつきで「旗手になったら優勝するといわれているので、私も必ず優勝します!」と言ってしまいました。とても後悔したのですが、あとの祭りです。

私が出場したのは2種目で、1日目が得意の50m平泳ぎでした。密かに優勝を狙っていたのですが、スタートに失敗して、残念ながら2位。得意種目だったので落ち込みました。皆さんの前で言った手前もあり、次は気持ちを切り替え、課題だったスタートの改善を試みました。

2日目は25m平泳ぎの短距離です。スタート時に右側に飛び込んでしまう欠点があったので、イメージトレーニングをし、当日の事前練習では何回も飛び込みをしました。あとは本番で集中することです。理想どおりのスタートが切れ、ひたすら水を掻き、壁を目指しました。結果は見事優勝!うれしさが倍増しました。

ひとつ残念だったのは、荒天のため開会式が縮小開催となり、旗手を務めることができなかったことです。私もそうですが、これまで

開会式の準備に携わった鳥取県の関係者や楽しみにしていた方々は、さぞかし残念だったと思います。来年の「ねんりんピック岐阜2025」の開会式では、晴天のなかで開催ができるようお祈りしています。



闘志を秘めて笑顔で会場入り。(左)



60歳～64歳の部、男子25m平泳ぎで優勝の栄冠。



## ゲートボール カンナ堺 B (主将)

こくぶ かよこ

國分 加代子 さん

82 歳

● 参加歴：6 回目

## 勝負に一喜一憂し、笑い声の絶えないチーム

私は定年まで仕事に励み、介護も行い、すべてが落ち着いた頃にゲートボールを始めました。それが64歳のときです。もう今年で18年目を迎えます。

ゲートボールの魅力を知り、日本ゲートボール連合の理事も66歳から務めました。それから、公認審判員資格の1級を取得しました。ゲートボールは少し前までは競技人口が多く、ねんりんピックや他大会に出るのは狭き門でしたが、最近はメンバーも減ってきています。そのため、地域のメンバーを増やすことに力を入れ、最近は2人増えました。やっぱりメンバーが増えると和気あいあいとして笑い声も増え、楽しくなります。

ねんりんピックとっとり大会は、今回が最後の出場になるかもしれないと、仲間を支えられて競技に参加しました。勝敗はともかく、良い対戦でした。後から知ったことですが、優勝した東京都チームとの対戦は3点差で負けてしま

いました。あのとき、もう少し頑張っ勝っていたら……と少し悔しい思いもしました。これからもっと練習に励もうと思います。

ねんりんピックには過去5回参加させていただき、どの地方の大会も良い思い出となっています。今回の大会では高齢者表彰があり、全国から92歳～95歳の選手が出席されていることに驚き、自分がまだまだ若いと気づきました。

毎日仲間と一緒に練習に励み、月に5、6回大会に出場し、勝負に一喜一憂し、笑い声が絶えません。趣味を生かして、編物、洋服のリフォーム、組紐を楽しみ、地域おこしでは若者から高齢者が集まる「ワイワイサロン」を立ち上げ、お茶の時間や雑談を楽しんでいます。子どもの下校時の見守りや老人会の行事にも参加し、老人ホームでの生花教室では若返りの一役を担うことも。これからも、何か役に立つことがないかと“おせっかいおばあさん”になって、頑張っ生きていきたいと思う毎日です。



6回目のねんりんピック参加も良い思い出に。(右端)



## グラウンド・ゴルフ 堺市グラウンド・ゴルフ（選手）

よし むら とし お

吉村 利夫さん 87歳 ●参加歴：4回目

### ねんりんピックの楽しさを語り続けたい

私がグラウンド・ゴルフを知ったのは退職後のこと。妻に勧められて練習を始めました。

2001年に堺市グラウンド・ゴルフ協会に入会し、2020年まで役員としてその任務を遂行いたしました。その間、事務局長、副会長、顧問等の任務に専念いたしました。2017年には堺市体育協会より感謝状、2020年に堺市教育委員長賞、2023年に近畿地区グラウンド・ゴルフ交歓大会で表彰状をそれぞれ授与されました。

堺市グラウンド・ゴルフ協会です事務局長を担当していた際には、グラウンド・ゴルフ大会のプログラム化を導入し、大会の組み合わせから当日の成績の結果を出すまでの時間短縮を可能にしたこと、プログラム作成者の人材の育成に尽力しました。

ねんりんピックには、みやざき大会、山形大会、しずおか大会に参加しております。今回の鳥取県の会場となった潮風の丘とまりでは、個

人的には3回ほどプレイを体験しております。このたびは、堺市グラウンド・ゴルフ協会より予選大会が開催され、堺市の代表として参加することになりました。

大会当日の総合開会式は残念ながら雨天のため会場が変更となり、地域の方々も当日までに大変ご苦労されたことと存じます。大会運営については効率よく設定され、待ち時間も苦にならず、優れた運営の在り方は今後参考にすべきところが多くあったと思います。

もてなしも数々あり、帰路のバス等の交通に便宜を図られておりました。

最後になりましたが、運営に携わられた皆様方に厚く御礼を申し上げます。このたびのねんりんピックの参加はメンバーに恵まれ、帰路に着くまで和気あいあいの旅で楽しい日々を過ごしました。今後、ねんりんピックの楽しさを語り続けていくことが私の任務だと思います。



ねんりんピックの楽しさを語り続けていくことが私の任務。

ホールポストを見定め、集中してプレイに臨む。(中央)



## ペタンク 神戸市 ぼんがぼんが (監督兼選手)

わだ あきこ  
和田 明子 さん 67歳 ●参加歴：3回目

### ねんりんピックを目標に練習する楽しみ

何か生涯楽しめるスポーツはないかなと始めて3年が経つペタンク競技。昨年5月に開催されたこうべ長寿祭（ねんりんピック神戸市代表選考会）を経て、ねんりんピックとっとり大会に参加させていただきました。

ねんりんピックとの出会いは、大会に出場された太極拳グループの演武を見たのがきっかけで、20を超える種目がある全国大会であることを知りました。

地域の方々を誘ってチームを発足し、毎週土曜日に小学校のグラウンドを借りてねんりんピック出場を目標に練習しています。

今年のねんりんピックは、残念ながら陸上競技場での総合開会式は縮小されて体育館での開

催となりましたが、選手団入場行進、国旗掲揚、皇族のおことば、炬火ランナーの点火セレモニー等々、普段経験することのない夢のような時間でした。ぜひ多くのねんりんピック世代に体験してほしいです。

さて、肝心の競技は予選リーグ1位通過！決勝トーナメントは2回戦で敗退しましたが、9位でメダル授与式をしていただき感謝。やはりメダル獲得はうれしいです！

ペタンク競技の開催地は三朝温泉。地元の小学生が描いてくれた各チームののぼり旗で盛り上がり、控えテントで一緒になった予選リーグの対戦相手のチームとの交流も盛り上がり、夜の居酒屋で出会った他県チームとも大いに盛り上がりました。地元のお酒はおいしく、飲み過ぎてしまいましたが、三朝の湯は疲れた身体を癒してくれました。

そして、今大会で一番感激したのは、選手一人ひとりの名前と競技を印字してくれた鳥取県産智頭杉のコースター！他の開催地にもぜひまた行ってみたいです。



9位のメダルを胸に笑顔の記念ショット。(左端)



三朝の小学生が描いたのぼり旗をいただいて帰り、神戸で体験会。